

銚田市まちづくり
推進会議広報

IPPO
～ 一歩 ～



2025年
6月23日
発行



第22号

巻頭写真： 発見 巨大キノコ「オニフスベ」

人の頭ほどもあるキノコを見つけたとの知らせがあり、さっそく見に行きました。
銚田の自然の豊かさにはいつも驚かされます。(2024年10月27日 銚田市内)

魅惑のカエル部屋へようこそ

藤井 歩

カエルグッズを集めて(多分)40年、気がついたらこんなことになっていました。



(近いところからパノラマ写真を撮ったので画像が歪んでいます。)

最初のカエルグッズは、子供の頃祖父に買ってもらった、背中に穴の開いた陶器のカエル(今はトイレのブラシ入れになっています)です。それからコツコツ買ったりもらったり、記事を書くことになって改めて数を数えてみたら、現在、カエル部屋に900個、カエル部屋の外に59個、合計959個のカエルグッズがありました。

集めだした当初はカエルなら何でもいいと、手当たり次第に集めていたのですが、だんだんと「リアル、大量生産品でない、変なもの」にこだわって集めるようになりました。

銚田市に移住してくる前も結構な数のカエルグッズがありました。飾る場所がなくて段ボールに入れっぱなしになっていました。移住してからは自

由に使える部屋が増えたので、一部屋をカエルグッズ専用のカエル部屋にして、ようやくカエルたちを外に出してやることのできたのです。

それでは私の秘蔵のコレクションを紹介させていただきますが、銚田市まちづくり推進会議の広報誌ですので、地域色を出していきたいと思います。さすがに銚田市に関するカエルグッズだけではすぐに終わってしまいますので、茨城県で購入したカエルグッズを3つのテーマに分けて紹介します。

① 筑波山のカエル

まずはカエルといえばガマ(ヒキガエル)で有名な筑波山でしょう。茨城県に移住する前、今はなきガマ公園を訪ねてみたくて筑波山に登ったことが

あります。ガマ公園では、死んだヒキガエルが水槽に浮かんでいてちょっとガッカリしましたが、お土産にガマの油を購入して、おまけとして水戸黄門の印籠をいただきました。

移住してからも時々筑波山に登りますが、さすがガマの聖地筑波山、たくさんのカエルグッズが並んでいて目移りしてしまいます。

下の写真①は 2023 年まで筑波山ガマ祭り期間中に開催されていた、ケロロ軍曹(カエル型宇宙人が地球を侵略するために奮闘するギャグマンガ)のスタンプラリー関連グッズです。残念ながら 2024 年は開催されなかったようです。



写真① ケロロ軍曹

写真②は筑波山の土産物屋で買い集めたカエルグッズです。



写真② 筑波山の土産物

② 直売所のカエル

茨城県には各地に農産物直売所があります。直売所に行った時には、必ず手作り手芸品のコーナーを

チェックします。かなりの確率で、大量生産ではない、個性豊かなカエルたちに出会えます。手作り品のため、同じに見えても表情に微妙な違いがみられるので、どの子連れて帰ろうかいつも悩みます。



写真③ 直売所の個性豊かなカエルたち

③ 真壁のカエル

茨城県桜川市真壁町は、伝統工芸品の石燈籠がよく知られています。移住したての頃、主人が石燈籠を欲しくなる病にかかっていたので、よく真壁に見に行っていました。その時に訪れた燈籠の職人さんの店で、私がカエル好きだという話をしたら、一緒にいた別の職人さんが、趣味で作ったという石のカエルを見せてくれました。気に入って連れ帰ったのが下の写真のカエルたちです。余談ですが、茨城空港にいる石のカエルもその職人さんが作ったそうです。



写真④ 燈籠の職人さんが作った石のカエルたち

④ 番外編

一般人でこれを持っている人はなかなかいないんじゃないかと思います。皆さんも道路工事の現場で見たことがあるのではないのでしょうか。正式名称は単管バリケードだそうです。2つ一組で単管パイプを差し込んで使いますが、2つはいらないので1つずつ壁に立てかけてあります。右はホームセンターで、左はAmazonで購入しました。



写真⑤ 単管バリケード

まだまだ紹介したいカエルグッズはたくさんありますが、ページに限りがありますので、このあたりで終わりにします。

少し前までカエル部屋はほぼ物置になっていましたが、最近は外の倉庫で飼っていたネコが高齢になってきてこちらに移したため、ネコ部屋になってしまいました。見学に来る人もいないので、気がつけばカエル部屋は別の用途に使われてしまっています。私だけが眺めているのはいつももったいないと思っています。万が一興味をもたれた方がいらっしやいましたらご案内いたします。

(藤井 歩)

カワセミ好きの バカたち

大木 繁夫



成鳥♂ (2020年12月30日、北浦北部、
撮影：小沼勲さん)

水辺の宝石『カワセミ』。その姿にはいつも感動させられます。全長17cmほどの小さな鳥です。体に比べて頭が大きく、長い嘴(くちばし)を持つという独特のスタイルが特徴。全国の池、湖沼、川等に住み、一年中見ることができます。水辺の多い銚田では見かける機会がけっこう多いのではないのでしょうか。

何といっても美しいのは、その色。頭の上から嘴の根元、翼、尾は青緑色(ひすい色)をしています。背中から尾にかけてのコバルトブルーの光沢が本当に美しい。そして胸からお腹にかけては橙色。寒色と暖色が絶妙なバランスをとっています。

カワセミを漢字で書くと「翡翠」となります。宝石の『ひすい』を漢字で書くとやはり「翡翠」です。

「翡翠」は元々中国でカワセミを表す言葉であり、時代が下ると宝石の玉も指すようになりました。



幼鳥～成鳥♀ (2020年1月2日、北浦北部)

一方、古代日本ではカワセミのことを「そび」「そにとり」と呼び、宝石の玉は「たま」と呼んでいましたが、室町時代以降にカワセミに「翡翠」の字をあて、さらに宝石の意味で「ヒスイ」とも呼ぶようになったとのことです。

見分け方は同じです。幼鳥は全体的に黒味がかたくすんだ色合いをしています。



カワセミも北浦北部の自然環境保護を訴えているようです。(2017年11月12日)



幼鳥♂ (2021年10月23日、北浦北部)

カワセミは飛びながら高い音で「チーッ」や「ツッチー、ツー」と鳴くので、それにより存在に気づくことが多いです。声がした方向の水辺の杭や芦の葉先を探してみましょ。小魚を狙って水中に急降下するところが見られるかも。

また、カワセミには縄張りがあり、決まったコースを巡回する性質があります。つまり、観察フィールドのどこで見ることができるかを掴んでおくことで、カワセミとの出会いの確率を大幅に高めることができます。

ちなみに、「翡」が雄、「翠」が雌のカワセミを表すとのこと。雄雌の見分けのポイントは嘴の色です。雄は嘴全体が黒、雌は嘴の上側は黒ですが、下側が赤いことで見分けることができます。幼鳥も雄雌の

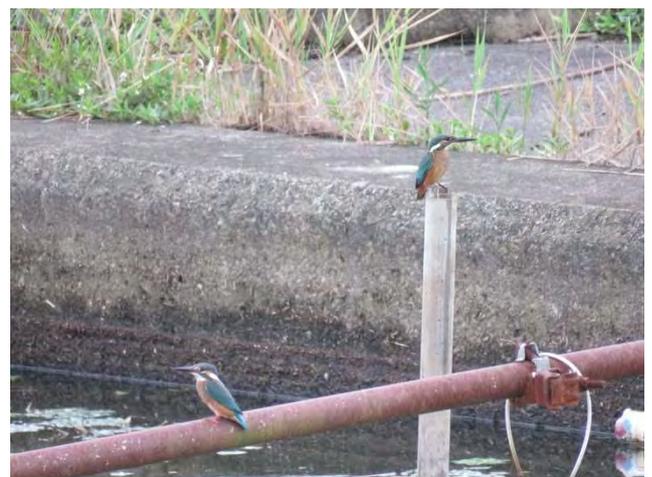


コサギと一緒に何を語り合っているのでしょうか。(2021年1月1日、北浦北部)

観察は肉眼でも可能ですが、双眼鏡やフィールドスコープがあるとよいです。機会があれば、自然環境部会の自然観察会に来てみてください。美しい姿をご覧いただけるものと思います。

カワセミを見るとなぜか幸せな気分になります。鮮やかな色彩と美しい姿が、なぜ人々の心を癒すのか。自然の中を歩くことは副交感神経の働きを高めストレスを軽減し、幸せホルモンであるセロトニンやβエンドルフィンの分泌を促すといえます。そこに幸せの青い鳥が現れることで、報酬系のドーパミンも分泌されるからでしょうか。動物園や映像ではなく、豊かな自然の中でカワセミに出会うからこそなのでしょうね。こうしてカワセミ好きのバカが生まれるのです。

(大木 繁夫)



船溜まりに2羽。兄弟か？
(2017年8月14日、北浦北部)

各部会より

人材育成部会（ほこた塾）

第 25 期ほこた塾塾長 雑賀美丘

「心機一転 だけど」
コロナの大騒ぎは終わったのに
どこまで高騰、暮らしにくい時代
お給料も上がるって言ってたけど
トップが変わって何が変わったの
ゼロ金利をやめるとは聞きました
もう緊急事態宣言ではないはず

まるで市民の心の声があふれ出したような、以上のテーマを掲げて5回の基本講座と2回の特別講座からなる第 25 期ほこた塾を開催しました。

★第 25 期ほこた塾入塾式★ 2024 年 10 月 24 日

銚田市から安原教育長のご臨席をいただき、入塾式を行いました。

約 30 名の塾生が参加し、式の後にはオリエンテーションと自己紹介がありました。

今期の入塾希望者 44 名のうち約半数が女性でした。これまで塾生の大半が男性だったことを考えると、いよいよ女性の時代到来！という感があり、初めての参加者や 20 代、30 代の若者も加わり、賑やかな出発となりました。



なお、この日に予定されていた第 1 回基本講座は都合により 11 月 28 日に延期となりました。

★第 1 回特別講座★ 2024 年 11 月 10 日 ワクワク！ドキドキ？大子バスツアー

（レポーター：藤井 歩）

秋も深まりつつある 2024 年 11 月 10 日、大子地方の魅力を再発見しようというテーマで第 1 回特別講座が開催されました。

バスは銚田市役所を出発後、紅葉シーズンにもかかわらず、考え抜かれたルートで渋滞に巻き込まれることもなく、最初の目的地、**奥久慈茶の里公園**に到着しました。まずは併設された和紙人形美術館で人形作家、山岡草さんの作品を見学しました。可愛い子供たちと、顔がやけに小さくて体は巨大な風格のある神々の人形という対照的な作品の数々に圧倒されました。

昼食は茶の里公園のお食事処で、けんちんそばとあげゆば入りそばをいただき体を温めました。食後は売店でお土産タイムです。茶の里だけあってたくさんのお茶が並んでおり、どれにしようか迷って陳列棚の周りを何周したか分かりません。

次は**奥久慈ゆばの里**でお買い物です。こちらはたくさんのお豆製品が並んでおり、なぜか旅先では気が大きくなるという現象のせいで、大量に購入してしまいました。もちろん美味しくいただきました。

お買い物のあとは**月待の滝**を訪れました。裏側から滝を眺めることができ、パワースポットとしても有名なところですが、残念ながら紅葉は少し早かったのですが、滝の水しぶきを浴びてリフレッシュできました。

そしてお待ちかねのりんご狩りです。大子町で一番の規模という**豊田りんご園**を訪れました。まず試食のりんごをいただきながら（シャキシャキで美味しいりんごでした！）、もぎ取り方の説明を受け、さっそくりんご狩りに向かいます。スタッフの方に丁寧にりんごの選び方などを指導していただき、楽しく収穫ができました。売店でアップルパイも購入しましたが、りんごがたくさん詰まっていて美味しかったです。

旅の終盤、**道の駅さとみ**で、エンジントラブルのためバスを乗り換えるというなかなかできない経験をしました。バスがよくここまで頑張ってくれたものだと思います。

す。おかげさまで全員無事に銚田市役所に帰ってくる
ことができました。

運転手さん、ほこた塾実行委員会のみなさん、大変
お世話になりました。楽しい旅をありがとうございました。



★第2回基本講座★ 2024年11月14日

「日本の政治は心機一転するか？ :30年前の『政治
改革』以降を振り返りながら」と題して、茨城大学副学
長の佐川泰弘氏に講演をしていただきました。第23期、
24期に続き、3回目の講演となりましたが、今回もたく
さんの資料を準備していただき大変勉強になりました。

政治家の収入や政治資金の流れについてなど、タイ
ムリで興味深い内容で、政治にあまり関心のなかつ
た一般市民も真剣に考えざるを得ない昨今の状況を
わかりやすく解説してくださいました。



★第1回基本講座★ 2024年11月28日

当初は入塾式当日に実施する予定だった第1回基
本講座を11月28日に行いました。

講師は茨城県生涯学習・社会教育研究会会長の長
谷川幸介氏で「人であることを諦めない『この時代に生
きる』ことの意味」をテ
ーマに、人類発生の
歴史や社会のあり方
などから新しい学び
の思想を探り、これか
ら「わくわく」しなが
ら歩いていくことが提
案されました。多岐
にわたる内容で、生き
方を深く考えさせられ
る講座でした。



★第3回基本講座★ 2024年12月12日

「市民活動の日米比較～市民社会のあるべき姿と
その可能性」をテーマに、認定 NPO 法人茨城県 NPO
センター・コモンズ常務理事の大野覚氏に講演をして
いただきました。

大野氏は NPO についてアメリカで学ばれましたが、
アメリカはもともと寄付社会であることから、NPO は政
策提言をすることもできる位置付けであること、例とし
てオバマ元大統領も NPO 職員であったことなど、日本
の NPO のイメージとは全く異なるものでした。

日米の現状の比較をもとに、日本での NPO に今後
期待される役割など、示唆の多い講座でした。



★第2回特別講座★ 2024年12月15日

「いにしへの筑波に触れてみよう」

をテーマにつくば方面に赴きました。

① つくばジオミュージアム

廃校となった旧筑波東中学校の校舎をリノベーションして作られた施設で、筑波の自然や文化を体験できる興味深い施設でした。

校庭を利用したサイクルパークには本格的なBMXのコースが作られており、県内外からちびっ子選手が来て、本格的な練習に取り組んでいました。



② 筑波山神社

東の霊峰「筑波山」を御神体として仰ぎ、約3千年の歴史を有する古社である筑波山神社を訪ねました。

ガマの油売りの口上も楽しみました。



③ つくば古道散策と古民家(大越邸)

つくば道は「日本の道百選」にも選ばれている古道で、徳川三代将軍・家光の時代に筑波山の参詣道として開かれた道です。

途中にあるレトロな郵便局が魅力的です。また大越邸は140年前に旅籠屋を営んでいた建物で、改修されて公開されています。受け継いだ方の思いに合わせて、保存には法政大学や筑波大学も関わっているそうです。



④ つくばワイナリー

筑波山の麓の水はけのよい肥沃な土地と、気候などの条件が葡萄の栽培に適しているということで、北条地区の広大な敷地に葡萄畑が広がっていました。

より適した品種を見つけるために本場フランスに行き指導を受けるなど、安定した収穫を得るまでの努力の話も伺いました。

オシャレなショップでは、美味しそうなワインが並んでいました。

★第4回基本講座★ 2025年1月16日

「お隣の外国人との付き合い方ー本格到来『他文化共生社会』」をテーマに、常磐大学学長の富田敬子氏に講演をしていただきました。

国連の職員として長年人口問題を研究されたことや、海外での生活経験をもとに、地元(ローカル)にしながら、国際的(グローバル)な視野を持つ「グローバル」の重要性を語られました。女性の活躍が願われる現代、学びの多い講座でした。



★第5回基本講座及び卒塾式★ 2025年2月20日

「ひきこもり不登校の『理解』と『対応』のあり方を探る」をテーマに小林幸弘氏に語っていただきました。銚田に移住し「ほこた塾」に刺激を受けた同氏は、7年前に「ひきこもり不登校・つながりを考える鹿行の会」を立ち上げ相談活動を行っておられます。ひきこもり不登校は本人にとって「生きるための反応」。現在100人に1人と言われ、決して他人事ではありません。様々な原因を理解し、家庭だけで悩まず交流会等で情報を共有し、多様な解決策のヒントにしてほしいとのことでした。

続いて、安原教育長のご臨席のもと卒塾式を行いました。多くの熱心な塾生の方々から「難しいタイトルもあったが面白く刺激になった。」「遠足、、、遠足が楽しかった!」「来期も是非開催してほしい。」との感想・要望をいただきました。スタッフの減少・高齢化の進む中、改めて継続の責任の重さを感じております。

仲間づくり部会

部会長 雑賀利雄

令和6年度の仲間づくり部会の活動としては、深刻な状況である少子化や孤独化を少しでも解消できるように、出会いの場の提供を目的とした婚活パーティーを5回企画して、4回開催しました。それに伴い企画会議や抽選会、お店との打合せ等、合計16回実施しました。

内容としては、6月2日に開催したメロンソーダ de 縁結び♪婚活パーティーでは参加者が自分で作った本物のメロンソーダやスイカソーダを食べながら話が盛り上がっていました。



また会場内で参加者にアンケートを実施し、女性参加者から多数のご要望のあったBBQ婚活を10数年ぶりに企画開催することになりました。

そのBBQ企画のかしま灘 de 縁結び BBQを9月23日にとつぷ・さんて大洋にて開催いたしまして、天気にも恵まれて BBQ日和になりとても楽しそうに見えました。



女性参加者獲得を狙って県内のレジャー施設を利用した11月の婚活パーティーは残念ながら女性の応募人数が少なかったため中止となりました。女性参加者を集めるために企画を考えましたが結果として女性が集まらないという結果に企画の難しさを痛感し、もっと多くの情報収集やアンケートが必要であると実感したので今後活かしていきたいと思えます。

1月19日の婚活パーティーは水戸に開催場所を移してのアニメ・漫画好きの参加者を募集し開催いたしました。趣味趣向が近いため非常に話が盛り上がり、カップルも予想以上にできました。



3月16日の婚活パーティーは9月のかしま灘 de 縁結び BBQ が好評だったので、年齢層を変えて開催し、雨にもかかわらず当日キャンセルもなく全員参加でたいへん盛り上がりしました。



4回の婚活パーティーで延べ男性参加者69名、女性参加者69名で14組のカップルが誕生しました。

申込者数は毎回男性の抽選倍率が2倍～3倍と多くの申し込みがあります、ただ女性参加者が少ないので女性参加者をもっと増やすことができるように、女性が参加したくなる企画を今後も考えていきたいと思っています。

仲間づくり部会の企画する婚活パーティーは出会いの場の提供を一の目的としていますので、カップルになって帰ってもらえるのが最も良い事なのですが、カップルまではいなくても連絡先の交換を促して、友達からの提案を薦めていきました。多くの参加者の皆様が積極的に連絡先の交換をしていました。

これからも参加して良かったと思える婚活パーティーを開催していきたいと思えます。

末筆になりましたが、令和6年4月吉日に、(令和3年度開催の婚活パーティー参加者カップルが)活動開始以来通算19組目の入籍報告がありました。

ご報告をいただき仲間づくり部会メンバー一同嬉しい気持ちでいっぱいです。参加者には事後報告は求めてはみませんが、このようにご報告いただくとより一層励みになります。またこれからも1組でも多くのカップルや入籍報告が続きますように、仲間づくり部会メンバー一同、誠心誠意活動していきたいと思えます。

自然環境部会

部会長 大木繁夫

2024年度は、北浦北部を中心に野鳥や植物の観察を行う定例の自然観察会を13回、県内の観察地を公用バスでめぐる移動研修を1回、北浦湖岸の清掃活動を3回、特定外来生物の駆除(オオキンケイギク、オオフサモ、アレチウリ)を4回実施しました。オオフサモについては、毎年の駆除の結果、かなり減らすことができ、手応えを感じております。

次世代を担う子どもたちを対象とした啓発活動にも積極的に取り組み、4年目となる銚田一高附属中学校第一学年のフィールドワーク(10/9)、3年目となる青少年育成銚田市民会議 串挽地区主催の「秋の星空観測会」(10/12)、3回目となる銚田南小保護者有志主催の「にじいろまつり」(11/3)、さらに2024年度から開

始した銚田市教育委員会主催のエコ・ハウス環境学習会(10/20、2/16)において、野鳥観察、天体観測、植物を使った工作を行いました。

今期も昨年に続き、北浦北部におけるカムリカイツブリの繁殖数は0と残念な結果となりました。厳しい状況ではありますが、あきらめずに環境保全活動を行っていききたいと思います。



オオキンケイギクを用いた染め物体験
(エコ・ハウス環境学習会 2024年10月20日)



特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除
(2024年5月19日 銚田市内)



ドングリのプレスレットづくり
(銚田南小「にじいろまつり」 2024年11月3日)

編集後記

この度、銚田市まちづくり推進会議広報誌 IPPO～一歩～第22号を発刊させていただきました。銚田市まちづくり推進会議では、人材育成部会、仲間づくり部会、自然環境部会があり、このIPPOは、三部会が集まる運営委員会で作成しています。今回も自然観察会や清掃活動等、充実した活動をしている自然環境部会提供の写真を巻頭に使いました。一瞬、宇宙から見た地球の姿かなと思われる巨大キノコの貴重な一枚です。

また、他の部会活動である、第25期ほこた塾や婚活活動の報告も回を重ねることに魅力ある活動報告をお届けできたと思います。

銚田市まちづくり推進会議では、多種多様な人材が思い思いに楽しく活動し、様々な地域での新たな発見を通して学んでいます。是非、皆様もご一緒に楽しい時間を共有してみませんか。どうぞお気軽にお声掛けください。
(運営委員長 田口裕之)



第3回 秋の星空観測会
(青少年育成銚田市民会議串挽地区主催
2024年10月12日)